

世界って、こんなにもあたたかくて面白い。

—— 先生が見守る安心感の中でつかんだ、確かな自信と新しい自分。

教員引率のもと、大きな期待と不安を胸にマレーシアへと飛び立った9名の生徒たち！今回の研修では、語学スキルの向上はもちろん、現地でのインタビュー調査や市場探訪を通して、異国の社会観や経済観を肌で学ぶ刺激的な日々を過ごしました。言葉の壁や文化の違いという壁にぶつかりながらも、自ら考え行動し、仲間と助け合いながら課題を一つひとつ乗り越えていく生徒たち。その顔つきは日ごとに頼もしくなり、見違えるほどたくましく大きな成長を遂げました。世界という未知の舞台へ勇気を出して飛び出し、未来への強い自信を手に入れた9名。子どもたちのリアルな挑戦を、ぜひお楽しみください！

2026年7月27日(月)～8月1日(土)
マレーシア・クアラルンプール (希望者)



いざ！ Kuala Lumpurへ！

7月27日(月)11:25成田空港発 JL723便で一行はマレーシアに向かいました。約7時間半のフライトで無事にクアラルンプール国際空港に到着。

入国審査の待ち時間が非常に長かったので、緊張した雰囲気になりました。待ち時間を利用して想定問答で英語の練習を行うなどしたものの、順番がきたら拍子抜けするほどあっさりとは入国できました。現地と日本との時差はおおよそ1時間です。



ELC語学学校

初日、簡単なクラス分けテスト後に他国生徒と授業を受けます。最初は「帰りたい・・・」というような、難しそうな顔をしていましたが、「この環境下ではやるしかない！」と覚悟を決めて集中して取り組み始めました。2日目以降は授業の雰囲気にも徐々に慣れ始め、新しい友達と話をしたり、アクティビティに積極的に参加するなどして「楽しい！」の声が。周囲は語学学習を目的にきている人ばかりなので、生徒たちの英語を学ぶモチベーションもグングンあがっているのが伝わってきました。午前中に語学学校でレッスン、午後実践アクティビティのパターンが多いようでした。



5日目、午前の授業終了後に修了式を行いました。生徒たちは、仲良くなった他国の生徒たちや、ELCのスタッフたちと、別れを惜しんでいました。今後も、SNSで互いに連絡を取り合っていくとのこと。世界がますます広がっていきます。

▲修了証を手にしたの記念撮影です

KL 4大タワー・フィールドワーク



▲チャイナタウン内にある本屋。まるで「本の迷路・要塞」です。

▼クアラルンプール (KL) 4大タワーのひとつ「ムルデカ118」。なんと697m！東京タワーの2倍！



▲クアラルンプールタワー (ムナラKL)



▲◀現地の方への英語インタビューに挑戦。断られても、果敢にチャレンジしました！

英語プレゼンテーション

4日目に「マレーシアのKL4大タワーから学ぶ経済成長」についてのプレゼンテーションを、グループに分かれて行いました。発表の仕方についてアドバイスを受けながら、構成や内容を考え、担当を決めて、発表しました。発表前日の夜にも、皆で集まって準備をしていたらしく、どちらのグループも、2日間のフィールドワークをもとに、しっかりと調べてあり、それらをもとに自分たちなりに考えたのだということが伝わる発表でした。



【マレーシア基本情報】

首都はクアラルンプール。民族はマレー系約70%で最も多い。言語はマレー語（国語）、中国語、タミル語、英語など。イスラム教が64%、その他仏教、キリスト教、ヒンドゥー教など。マレーシアとして成立したのは1963年。1965年にはシンガポールが分離、独立した。



本校の海外研修は、マレーシアをはじめ、ほぼすべての希望者プログラムで本校教員が引率しています。現地での学びや生活はもちろん、万が一の体調変化やトラブルにも「いつもの先生」がすぐ傍で対応します。この揺るぎない安心感があるからこそ、生徒たちは不安なく、思い切って未知の世界へ飛び込むことができます。